

関係者と直接顔をあわせ、交流できる良い機会でもありました。
第3回岡山地方会学術集会は独立行政法人労働者健康福祉機構岡山労災病院大本院長のもと、平成20年2月23日(土)に開催いたします。

第6回香川地方会

代表世話人：高松赤十字病院呼吸器科部長 山本晃義



会場風景

第6回目を迎えた香川地方会は、平成19年3月3日(土)に、香川県社会福祉総合センターにて開催されました。

当日は、県内外より、134名の参加者が集まりました。一般演題では、クリティカルパスをはじめとして、医療安全、感染対策など20演題の申し込みがあり、中身の濃い発表と熱心な討論が行われました。特別講演では、徳島大学病院医療情報部の森口博基先生に、「ICT－誰のために何のために？」という題で講演していただきました。ITを用いた、遠隔医療や看護師教育システムなど、希望あふれるお話に皆、感動いたしました。

香川地方会も第6回を数え、年々、演題数も増え、内容も充実してきています。これからも、本学会を通して、香川県の医療レベルがさらに向上するよう努めていきたいと考えています。

最後に、今回の開催にあたり、お手伝いいただいた皆様方に深く感謝いたします。

第6回神奈川地方会

当番世話人：横須賀市立市民病院病院長 久保 章

日本医療マネジメント学会神奈川地方会は、平成19年3月10日(土)に横須賀市文化会館を会場に開催され、約400名の参加者を得て、成功裏に会を進めることができました。

「DPC環境下で医療の質をいかに保つか」をメインテーマとして、演題を募集し、一般演題28題、ポスター15題の43演題の応募をいただき、活発な討論がなされました。

その内容は、①DPC導入までの試み、②DPCに対する対処の仕方、③DPC導入後の病院の変化、④DPCのデータをどのように活用しているか、など多岐にわたる討論が繰り広げられました。

いずれの発表も非常に示唆に富み、DPC準備病院や現在DPCを検討中の病院関係者にも十分に参考になる内容であったと思います。また特別講演として、医療法人川崎病院外科総括部長の井上善文先生に「医療の質をいかに保つか－本当に大事なものは個人個人の心がけとプロ意識－」と題してご講演をいただき、大好評でした。

会は終始、熱気があふれて進行し、滞りなく閉会することができました。

第9回熊本地方会

当番世話人：熊本市医師会熊本地域医療センター院長 相良勝郎

平成19年3月10日(土)に日本医療マネジメント学会第9回熊本地方会は、あいにくの雨の中約280名の参加者を得て熊本学園大学で開催されました。

九州大学大学院医療システム学教授信友浩一先生には「新医療計画策定(2008)：患者の視点から地域医療連携を見直す」と題



会場風景

して特別講演をいただきました。感染症などの急性期疾患から慢性疾患が主流になってきた昨今、患者の不安を察し、意味のある人生について共に考えてくれる医療者が求められていることが「患者の視点」であること。地域医療のモデルを中央政府が持ち

合わせていないからこそ、地域から発信されるデータや情報が注目されていることなどを熱く話して下さいました。

シンポジウム「医療におけるIT化の現状と問題点」では4名の演者からそれぞれの視点に立って、①電子カルテの導入による経営効果と今後の課題について、②電子クリティカルパス－紙クリティカルパスから電子クリティカルパスへ、③地域連携クリティカルパスにおけるIT化の現状、④大学病院と地域診療所との連携－これまでとこれから－についての発表がありました。電子カルテの可能性と現実のギャップはまだあるのですが、非常に魅力的なツールであることが良く理解できました。

一般演題は、医療の質、地域連携・チーム医療、リスクマネジメント、感染対策・その他の4つのセッションを設け30題の演題が、クリティカルパス展示には22題のクリティカルパスが発表されました。それぞれの発表は座長の手際よい進行により活発な質疑が行われ好評のうちに閉会となりました。次回は丸田会理事長丸田秀一先生が当番世話人で平成20年3月8日に開催されます。(文責：社団)熊本市医師会熊本地域医療センター地域医療連携室長 田上正)

第5回山口地方会

会長：岩国市医療センター医師会病院長 内山哲史



会場風景

第5回山口地方会が、平成19年3月17日(土)にシンフォニア岩国で開催されました。

テーマを「医療における標準化～質のよい安全な医療を目指して～」と掲げ、会を代表して岩国市医療センター医師会病院内山哲史会長よりテーマ

の選定理由が述べられました。

次に特別講演では、東京大学大学院 飯塚悦功教授が、『医療の質・管理』と題して、「医療の質・安全の確保のための要件と、医療における標準化について」、たいへん分かりやすく話されました。引き続き行われた一般演題発表では、「クリティカルパス」「安全管理」「医療サービス・質」「経営・業務改善」の各セッションで11医療機関、19演題の発表があり、各施設とも質の向上や効率化・標準化に向けた取り組みを現場の視点からまとめておられ、会場の関心を引き付けていました。最後に次期会長の小野田赤十字病院水田英司院長が挨拶され幕を閉じました。又、ロビーには各医療機関から提供された24題のクリティカルパスが展示されました。

岩国市での開催は初めてですが、山口県内の医療機関及び関係者の協力を得て、県内や広島県から270人を超える参加があり、無事終了することができました。皆様のご協力、ご支援に感謝申し上げます。

(文責：岩国市医療センター医師会病院事務長 山崎幹)